Tegaki API移行マニュアル（Ver.1→Ver.2）

このドキュメントは現在Tegaki APIのVer.1 をご利用中のお客様を対象に、Ver.2への具体的な移行方法をご説明します。

Tegaki APIバージョン

Tegaki APIは現在2つのバージョンを提供しています。2つのバージョン間には上位互換性がないため、Ver.2への移行に伴いAPIをコールしているお客様側システムの変更が必要となります。

- **Ver.2**: 2017年11月にリリースした最新バージョン
- **Ver.1**: 非推奨バージョン。Ver.2への移行猶予期間中で、2019年10月末に停止予定。

Ver.2への移行メリット

Tegaki API Ver.2は2017年11月の本リリース移行、1年8ヶ月以上にわたり多くのお客様にご利用頂いています。Ver.2はVer.1に比べて機能が豊富であるため、Ver.2を利用すると下記メリットを享受して頂くことが可能です。

- 帳票全体を送信して読み取るForm APIだけではなく、
  項目画像を読み取るField APIも利用することができます。
- リクエストID単位で読取り結果データを削除することができます。

Ver.1のエンドポイント

Ver.1では、下記2つのAPIエンドポイントを提供しています。

- **POST /v1/form**　- 帳票をTegakiへ送信し、文字読取り依頼をする
- **GET /v1/form/{requestId}**　- 文字読取り結果を取得する

【参考】Ver.1 API仕様書: https://docs-v1.tegaki.ai

Ver.1 → Ver.2への移行方法

Ver.1のAPIエンドポイント毎に、Ver.2への移行方法をご説明します。本ドキュメントではお客様側システムの変更が必要となる最低限の部分に絞ってご説明しています。

本ドキュメントで取り上げる部分以外でも、Ver.2ではVer.1にはない有益な情報が追加されています。詳しくは本ドキュメント末尾の参考情報より、API仕様書をご確認ください。

POST /hwr/v1/form

帳票をTegakiへ送信して文字読取り依頼するためのエンドポイントです。

URL:

URLは下記のように変更します。

バージョン	URL
Ver.1	POST /hwr/v1/form
Ver.2	POST /hwr/v**2**/form

リクエストパラメーター：

バージョン番号を下記のように、1から2へ変更します。

Ver.1（抜粋）	Ver.2（抜粋）
`{ "version": "1", "imageData": "<base64 encoded data>", "templateData": "<base64 encoded data>",`	`{ "version": "2", "imageData": "<base64 encoded data>", "templateData": "<base64 encoded data>",`

レスポンス仕様（成功時）：

お客様側システムの変更は必要ありません。

Ver.1・Ver.2 共通: 成功時レスポンスサンプル

```
{
  "requestId": "7a0ac671-db61-4b8c-be80-2bf56d11b618"
}
```

レスポンス仕様（エラー時）：

お客様側システムの変更は必要ありません。

Ver.1・Ver.2 共通: エラー時レスポンスサンプル

```
{
  "requestId": "90260fae-3513-4db8-b698-c221c428960d",
  "errors": [
    {
      "code": 1203,
      "message": "imageData is a required field in json body",
      "fieldPath": ""
    }
  ]
}
```

GET /hwr/v1/form/{requestId}

文字読取り処理の進捗状況を確認したり、処理結果を取得するためのエンドポイントです。

URL:

URLは下記のように変更します。

バージョン	URL
Ver.1	GET /hwr/v1/form/{requestId}
Ver.2	GET /hwr/v**2**/**request**/{requestId}

レスポンス内容（成功時）：

Ver.1とVer.2では、文字認識結果を格納しているJSON構造が異なっているため、文字認識結果を参照するコードを変更して頂く必要があります。

文字認識結果を格納しているJSON構造の違いは下記の通りです。Ver.1ではresultsオブジェクトの中にfields配列があり、その配列要素として各フィールドの読み取り結果を返しています。一方Ver.2ではresults配列の要素として各フィールドの読み取り結果を返しています。

Ver.1（抜粋）	Ver.2（抜粋）

`"results": {`
`  "fields": [`
`  {`
`  "fieldId": "e327651b...3c6c4284760f",`
`  "name": "会社名",`
`  "fieldPath": "fields[0]",`
`  "singleLine": {`
`  "text": "テスト社",`
	`"results": [`
	`  {`
	`  "fieldId": "e327651b...3c6c4284760f",`
	`  "name": "会社名",`
	`  "fieldPath": "fields[0]",`
	`  "singleLine": {`
	`  "text": "テスト社",`

レスポンス仕様（エラー時）：

お客様側システムの変更は必要ありません。

Ver.1・Ver.2 共通: エラー時レスポンスサンプル

```
{
  "errors": [
    {
      "code": 1208,
      "message": "Invalid format of requestId"
    }
  ]
}
```

参考情報

- Ver.1 API仕様書: https://docs-v1.tegaki.ai
- Ver.2 API仕様書: https://docs.tegaki.ai

お問い合わせ

本ドキュメント記載内容についてご不明点がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

Cogent Labs サポートチーム
support@cogent.co.jp

2019/07/31